



米長 邦雄

「永世棋聖、日本将棋連盟会長」

山の声を聴く 森林づくり

現在、全国の山々で、緑化活動が盛んに行われています。例えば、栃木県の足尾銅山周辺では、採掘過程に出た煙などで山々が荒廃してしまいました。そこで「緑の山を取り戻そう」と、自治体や市民が一緒になって、活発に緑化活動に取り組んでいます。山を元の姿に戻すにはとても時間と労力がかかります。長い時間をかけてつくられてきたものがだめになり、それを以前の姿に取り戻そうというのですから当然のことかもしれません。その活動に取り組むとき、単に緑を増やすことだけを考えてはいけません。活動の過程において、その山にもともと住んでいる者、つまりその山で生きている動物たちの声に耳を傾けることが大切、と考えます。その山のことは、そこに住んでいる動物たちが一番よく知っています。動物たちが住みやすい環境になり、生態系が戻ったとき、本来の意味で、山は生き返るのだと思います。

日本の森林の現状に目を向けると、スギが大量に植栽された人工林の弊害が問題になっています。これらは、動物の声に耳をかさず、人間の都合で植栽を行った結果、今になって悪影響が出ているのです。スギの働きによって、大気中の二酸化炭素量が減ったというメリットはあるのかもしれませんが、花粉症が広まったというデメリットもあるのです。このような人工林の多くは、適切に手入れが行われていない現状にあります。こういっ

た問題を解決するためには、改善に向けた人の手と計画が必要。しかも、机の上だけで研究している者ではなく、実際に山に入って活動している研究者による計画でなくてはなりません。なぜなら、現場を知り、そこで培った経験をもつてこそ、山を回復させる計画がつけられるのだと考えます。

また、日本には木の文化がありませんが、子どもたちの間では、「木離れ」が進んでいて、今後木の文化が薄れていくのでは、と危惧されています。その文化を継承し、発展させていくために、木造の学校をつくるなどして木と触れ合う機会を増やすようにすれば、「木離れ」の進んだ子どもたちの感性も変わるのではないのでしょうか。さらに、森林体験、下草刈りなどのボランティア活動を教育の一環として行っていくことも、森林と子どもを近づける要因にもなります。子ども頃から森林の大切さや働きを知ること、自然への意識が定着し、「森林にとっても自分たち人間にとっても、いい関係・環境」が出来上がると、私は考えます。

プロフィール
米長 邦雄（よねなが くにお）
昭和18年、山梨県生まれ。昭和38年に四段を取得し、プロ棋士となる。昭和48年度第22期棋聖戦で初タイトルを獲得。59年度には十段、棋聖、王将、棋王の四冠王に。60年に「永世棋聖」の称号を受けた。平成11年に東京都教育委員に就任、平成15年秋に「紫授褒章」授章。平成17年より日本将棋連盟会長を務める。

Kunio Yonekura